OCA レポート

2017 年 3 月

2015 年 1 月から 2016 年 12 月までの活動報告

特集

（財）MRAハウスOCA国際交流事業（以下OCA）の 2015 年 1 月から 2016 年 12 月までの 2 年間の活動内容を報告します。OCAは毎年 5 月にタイのチュラロンコーン大学から 15 名程度の学生を受け入れホームステイ、大学との交流プログラムを 40 年以上にわたり続けてきました。

毎年 11 月にはコモンビートと組んで約 40 人の若者と一緒に台湾、タイの大学、孤児院を訪問する交流活動を続けています。2015 年と 16 年には台湾の学生もこの活動に参加して、一緒に歌と踊りの舞台を作り、各国で公演を行ってきました。2015 年には 11 人、16 年には 15 人の台湾学生がこの公演活動に参加しています。毎年 8 月には台湾の学生が来日してサマーキャンプを行い、一緒に公演内容の作成、リハーサルを行います。私たちは一緒に舞台に立つことでお互いを理解し合い、本当の友人になる機会を持つことができると考えています。

タイ訪問時にはチュラロンコーン大学だけでなく、チェンライの山岳民族の孤児院メイコックファームとチェンマイのHIV感染孤児院バーンロムサイを毎年訪問して、公演を行い、子供達と遊ぶ機会を作っています。またこれらの施設で働く人たちがなぜ海外でこのような活動をしているかお話しを聞く機会を設けています。

コモンビートは 11 月に 50 人の日本人と 50 人の韓国人で 8 か月間かけて準備したミュージカル「A Common Beat」の韓国公演を行いました。OCAも 8 月の日本での合宿等この公演活動を支援してきました。

2017 年 11 月には台湾とフィリピンで公演を行う計画です。また 2018 年 4 月には台湾にてミュージカル「A Common Beat」の台湾公演を行うことを計画しています。

一緒に舞台に立つことで真の友人を作り、国際交流の成果を上げられると考えています。

「レッツゴー６６」50 周年記念パーティーの開催

2016 年 11 月 26 日に「レッツゴー66」の武道館公演から 50 周年を記念して浜松町シーバンスホールで記念パーテイが開催されました。このパーテイには 50 年間の活動に参加したレッツゴー、シングアウト、移動高校、UWP, OCA, MRAハウス, コモンビートの関係者が 120 人参加し盛大なパーテイになりました。

フィリピンからラケールナカヤマさん、台湾から林定三さん、韓国から Kim Jinsook さんと Suhyun Hong さん、米国から石金、Joh 夫妻、大沢まさ子さんが参加されました。また最近米国から帰国されたトーマス矢野・淑子夫妻、真島喜幸さんも参加され、懐かしい顔ぶれがそろって、楽しい時間を過ごしました。
パーテイは奥村さんの司会で軽快に進み、渋沢雅英氏の乾杯のあいさつ、相馬豊胤さんの 94 歳の誕生日のお祝いも行われました。

コモンビートの皆さんが最近ミュージカルで歌っているコーラスを披露した後、古関さんをリーダーとして今回編成されたバンドに合わせて「レッツゴー66」で歌った懐かしい曲目を合唱しました。最後はコモンビートの方々も入って「涙を超えて」の大合唱でパーテイを締めくくりました。

5 月チュラロンコーン大学生の日本研修

チュラロンコーン大学シリマー先生のレポート

OCAがチュラロンコーン大学との交流を始めたのは 1971 年ですから、今日まで 45 年間の交流が続いていることになります。この民間の交流活動を続けてこられたのは相馬さんのタイに対する愛情と強い意志があったからだと思い、深い感謝の気持ちで一杯になります。おかげでこのOCA訪日プログラムは現在チュラロンコーン大学の公式行事になり、大学の予算もつくようになりました。

2015 年と 2016 年 5 月に行われた訪日プログラムにつきレポートします。

2015 年 5 月

2015 年 5 月 27 日から 6 月 5 日までの 10 日間チュラロンコーン大学、カセサート大学の学生 12 名、ソンブーン先生と私の合計 14 名が訪日し、名古屋、中津川、東京、箱根を訪問して学生交流プログラムを行いました。

名古屋の名古屋商科大学（名商大）では日本の学生 15 名とタイの学生 12 名が日本とタイの文化につき討論会を行った後、トヨタの元町工場を一緒に訪問して車の組み立てラインを視察しました。また名古屋科学博物館を訪問し、世界一のプラネタリュームを観賞し、－30 度の低温体験室に入って極寒の世界を楽しみました。

中津川では 12 軒の家に 2 泊 3 日のホームステイを行い、ゆかたに着替えて川下りを楽しんだり、和太鼓の練習をして日本の家庭生活を味わいました。

東京では埼玉大学生が受け入れを行ってくれました。埼玉大学での特別講義を受けたのち、タイの学生と埼玉大生合計 30 人は箱根バスツアーを行い、海賊船に乗り、植物園を訪れて自然を満喫しました。楽しいプログラムで参加したタイの学生はたくさんの日本の友達を作ることができたと思います。

2016 年 5 月

2016 年は 5 月 24 日～6 月 2 日までの 10 日間訪日研修プログラムを組みました。残念なことに直前に熊本大地震があった為に学生の参加者が 6 人となってしまいました。私と大学関係者 2 人を加えて 9 人でプログラムに参加しました。

東京では埼玉大学と中央大学が受け入れを担当してくれました。両大学で特別講座を受け、日本の学生とともに川越を見学し、ディズニ―ランドで遊び、浅草、明治神宮、原宿を散策しました。私と相馬夫妻は私の甥にあたる駐日タイ大使ご夫妻を大使公邸に訪問し、学生交流活動について大使ご夫妻に説明しました。

中津川では 2 泊 3 日のホームステイを行いました。今年で 3 年目になるホームステイは毎年タイ学生が一番楽しみにしているプログラムです。

名古屋の名商大生とともに今年もトヨタ工場、リニアー鉄道博物館、大須ショッピングセンターを訪問し、夜はカラオケ大会を行い盛り上がりました。東京、名古屋の 3 大学で日本人の学生 43 人の皆さんと交流を行い良い友達を作ることができました。

私が担当してきたこの学生交流プログラムも来年からはソンブーン先生とプロイさんが担当することになりました。長い間ご協力をありがとうございました。

11 月アジアンビートプログラム 台湾・タイツアー

Sing Out 台湾　林定三さんのリポート

私がレッツゴー66 を見たのは 1966 年レッツゴーが台湾公演を行ったときでした。その後私は友人と Sing Out 台湾を設立し、50 年間活動を続けてきました。米国の Up with People を台湾に招待してUWP台湾公演も行いました。2015 年に初めてOCAのアジアンビートプログラムを知り、台湾の学生 11 名を派遣するとともに台北と台中で大学との交流プログラムを展開しました。

2015 年、2016 年の活動をご紹介します。

2015 年 8 月、11 月

この年の 8 月に日本でサマーキャンプを企画し、11 月のツアーのリハーサルを行いました。台湾から 11 人の学生を選抜して千葉県市川市でのサマーキャンプに参加しました。

10 月 31 日日本からの 27 人のメンバーを台中に受け入れ合計 36 人で台中公演を行いました。公演会場には 350 人の観客が集まり、英語、台湾語、日本語で歌とダンスを楽しみました。

11 月 2 日 36 人のキャストはバンコックに飛び、チュラロンコーン大学で 5 月に訪日した学生を含め 70 人の学生と歌と踊りによる交流会を行いました。

11 月 5 日キャストは北部タイのチェンライに飛び山岳民族の孤児院「メイコックファーム」を訪問して子供達との交流会を行いました。ここでは象乗り、温泉を楽しみ、山岳民族の村を訪問し、夜には満天の星空にいくつもの流れ星を見ることができました。

バスで 5 時間チェンマイまで移動したキャストは 7 日 HIV感染孤児の孤児院「バーンロムサイ」を訪問し、公演を行い、名取美和さんのお話しを聞きました。

10 月 31 日から 11 月 8 日まで 9 日間の旅は夢のような時間となりました。台湾の学生達も多くの友達を作ったことと思います。このプログラムは日本の国際交流基金の支援をうけて行われました。

2016 年 8 月、11 月

この年も 4 月には台湾選抜キャストを選出するオーデションを行い 18 名の学生を選抜しました。6 月には日本から 2 名のインストラクターが来て練習を行いました。

8 月 26 日から 9 月 1 日までの 7 日間 18 人の台湾学生は千葉県市川市で行われたサマーキャンプに参加しました。このキャンプにはフィリピンの学生、コモンビートのキャストを入れて 39 人の参加者が集まり 11 月のツアーの練習を行いました。

11 月の台湾・タイツアーは 10 月 29 日から 11 月 6 日までの 9 日間 32 人のキャストで行われました。台湾では私の卒業大学の真理大学で公演を行い、台中の天后宮でストリートライブを行いました。

11 月 1 日にキャストはバンコクに飛び、チュラロンコーン大学の学生との交流会を行いました。この年はタイ訪問の直前に国王の崩御があり、タイ全土で歌と踊りが自粛されていたため、夕食会を開き久しぶりの再会を楽しみました。その後チェンライの「メイコックファーム」チェンマイの「バーンロムサイ」を訪問し、子供達との交流会を行いました。

毎年このように国籍の違った仲間が集まり一緒に舞台を作り、旅をしてパフォーマンスを行ってゆくことは真の友達を作るのには一番良い方法だと思っています。これからもこのアジアンビートプロジェクトを続けてゆきたいと考えます。

バーンロムサイ・メイコックファームへの支援

バーンロムサイ名取美穂さんのレポート

バーンロムサイは 1999 年にタイのチェンマイに設立されたHIV感染孤児の孤児院です。現在 30 人の子供たちがこの施設で生活しています。HIV自体は良い薬が普及したおかげで今では子供たちは元気に生活ができるようになりました。

OCAにご寄付をお願いした 2012 年当時は孤児院の子供達と地域の子供達をどのようにうまくつき合わせるか悩んでいたころでした。まだHIV感染についての偏見が強い時期だったのです。OCAの支援で図書館プロジェクトの運営を行い、バーンロムサイのなかにある図書館を充実して、地域の子供達に来てもらうようにしました。今では 8 歳から 20 歳の子供達のべ 160 人の会員がこの図書館を利用しています。また図書館のコンピューターは子供たちが宿題を完成させるために必要な必需品となっています。

コモンビートの方々は毎年 11 月にバーンロムサイを訪問し、子供達のために歌と踊りのショウを行ってくれます。子供たちは毎年大変楽しみにしています。

現在の問題は 18 歳になり卒園した子供たちがどのように社会に順応してゆくか、どのようにバーンロムサイとの関係を維持しながら自立してゆけるかが大きな問題になっています。これについてもOCAやコモンビートの方々の協力を得てよいプログラムを作ってゆこうと考えています。

メイコックファーム　アノラックさんのレポート

メイコックファームは私の夫の Pipat Chaisurin 先生と聖学園の戸邉先生が 1990 年に設立した山岳民族の孤児院です。第 2 次大戦中に日本軍は北部タイでアヘンの販売を始めました。日本軍はアヘンの販売でその活動費の30%を賄ったと言われています。北部タイは戦後もアヘンの中毒に長く悩んでいました。メイコックファームはアヘン中毒患者のリハビリ施設として 1996 年から 2000 年まで活動しました。その後中毒患者の子供、エイズで亡くなった両親の子供達を引き取り養育する孤児院として活動を行いました。現在メイコックファームには 30 人の子供たちが生活しています。

2010 年ごろ戸邉先生を通じて相馬さんを知ることになり、それ以降OCAの支援を受けることになりました。相馬さんは子供達の生活が少しでも良くなるようにとの気持ちから支援をされたと聞きます。2012 年からはコモンビートの方々が毎年 11 月に来られ、子供達のために歌とダンスのショウを見せてくれます。子供達も毎年楽しみにしています。私たちはメイコックファームの関係者だけでなく近くの山岳民族の方たちも招待して夕食を食べ、歌と踊りを楽しむ機会にしています。昨年はメイコックファームの子供が通う近くの小学校に訪問してもらい歌と踊りの公演をしてもらいました。

今後とも山岳民族の子供達の生活と教育を支えてゆくつもりです。OCA、コモンビートの方々のご支援をよろしくお願いします。

コモンビートへの支援活動

OCAの活動は 1965 年に米国の音楽ショウ Up with People を見て刺激を受けた若者が日本で Sing Out 活動を始めたことに起因する。1971 年 Sing Out に所属していた若者たちがアジアとの交流に乗り出したが、これが Off Campus Activities(OCA)の始まりであった。それ以来OCAは米国の Up with People との関係を大切に育ててきた。

2004 年 Up with People から帰国した若者が Up with People のミュージカルの一つ A Common Beat を日本で公演し、その後「NPO法人コモンビート」として活動を始めて以来、OCAはコモンビートの支援を続けて来た。

2015 年コモンビートは日本から 50 人、韓国から 50 人のキャストを公募して 100 人の日韓キャストによるミュージカル「A Common Beat」の公演を企画した。5 月から日韓でキャストの募集を始め、何回かの合同合宿を重ねて、9 月 19 日にソウルのユニバーサルアートセンターで 1000 人の観客を集めて初公演を行い、10 月 3 日には福岡のキャスルシティ劇場で同じく 1000 人の観客を集めて公演を行った。公演はソウルでは 6 割が韓国語、福岡では 6 割が日本語で行われ、キャストは両言語を教え合って公演までこぎつけた。

2016 年は同じように日韓でキャストを募集し、日本から 36 人、韓国から 54 人、合計 90 人のキャストでミュージカル「A Common Beat」の公演を行った。この年は日本での公演会場が取れなかったために、ソウルのマポアートセンターで 11 月 12 日、13 日の 2 日間で 3 回の公演を行い、合計 1400 人の観客を動員することができた。公演はすべて韓国語で行われ、日本側キャストもすべての韓国語のセリフを覚えて舞台に立った。2016 年の公演は国際交流基金の助成金を受けた。OCAはこの助成金申請、日本での合同合宿費用の負担等の協力を行った。

日韓両国は多くの政治的な課題を抱えている。また韓国社会も多くの問題を持っているが、日韓のキャストが 6 か月間のミュージカルの準備と公演を通じて、お互いの違いよりも共通点に気づき、一つの目標のために心を開いて喜びも悲しみも一緒に分かち合い、一つの成果を生み出すことができたという体験をこのプログラムで実現できれば良いと思う。

Up with People への派遣

田井淳美	島林由香	中原有紀子
（あっちゃん）	（ゆかちん）	（ゆっこ）
2016CastB	2016CastA	2015CastA

2016castB 参加　田井淳美（あっちゃん）レポート

2016 年 7 月から 12 月まで、支援していただき Up with People に参加いたしました。私は普段は高校で英語教諭をしています。英語は教科ではなくコミュニケーションのツールだと生徒に常々伝えてきましたので、それを体現すべく、また世界を自分の目で見ることを目的に掲げて参加しました。21 ヶ国 116 人のメンバーと 5 か国を旅して得たことは、自身の目的だけではなく、『減点方式をなくす』という価値観です。

メキシコの学校で生徒に質問を投げかけると、子どもたちが「はいはい！」といっせいに手を挙げました。一人の男の子に尋ねると「んー、忘れちゃった！」とあっけらかん。彼らは間違えることを全く恐れず、参加することを純粋に楽しんでいました。

フィンランドの学校では宿題がないらしく、宿題をやってこなかったら減点される日本とは大きな違い。自分で選び、積み重ねていく力がありました。

英語を話すことも、ここでは考えを伝えるためでした。自分のことを理解してもらいたい。相手を理解したい。その気持ちで話す英語は限られた語彙であったとしても、一生懸命話せば伝わります。これもひとつずつ積み上げていく考え方で、喜びや感動を手にした経験でした。

この 5 ヶ月の出来事をまとめるにはまだ時間がかかりそうですが、新たな価値観を加え、今後の教員生活に生かしてしていきます。支援していただき、本当にありがとうございました。

ＭＲＡハウスとＯＣＡ事業

MRAは Moral Re Armament の略である。第一次大戦後の 1920 年代に米国の Frank Buckman 博士がオックスフォード・グループと呼ばれる平和運動を提唱したことから始まった。第二次大戦後スイスの Caux で現在のダボス会議のさきがけのような「世界会議」を開催し、「独・仏の和解」や日本を含めた「アジアの融合」運動などを展開した。このグループは冷戦の中で武力の再武装を進めるのではなく、Moral の再武装を行うことを提唱した。これがMRAの活動の起点である。

その後米国ではミュージカルショウを公演しながら世界を旅行して、青年の教育を行う「Up with People」という教育財団に発展し、日本では「(財)MRAハウス」として国際相互理解の増進を図る事業、国際的リーダー・人材の育成を図る事業を実施、支援、助成する財団へと発展した。(財)MRAハウスは 2015 年度 5650 万円を公益目的事業、助成事業に充て活動を展開している。

OCAは Off Campus Activities の略。1971 年(財)MRAハウス内に東南アジアとの国際交流、学生交流事業を目的とした団体として発足した。この年日本の大学生が東南アジアの大学を訪問し、以来 40 年間東南アジア、韓国、台湾を中心に若者の国際交流活動を行っている。

OCA の運営方針

組織形態　OCAは一般財団法人MRAハウスの直轄事業として活動している。

活動方針　海外との異文化交流と地域社会との交流を通じてグローバルリーダーシップの育成をめざす。

活動予算　活動予算は一般財団法人MRAハウスの年次予算による。MRAハウスは 基本財産および
その他の財産運用等により事業活動を行っている。

年間予算　2015 年、2016 年のOCAの活動内容と年間経費の実績は以下の通り。

		2015年 （実績）	2016年 （実績）
5 月	タイ学生日本交流プログラム	1,420,000	1,000,000
6 月	UWPキャスト来日準備作業		150,000
6 月	台湾キャストリハーサル指導員派遣		150,000
7 月	相馬野馬追い祭り支援	200,000	
8 月	韓国キャストとの合同練習		520,000
8 月	台湾学生とのサマーキャンプ	440,000	400,000
10 月	バーンロムサイへの指導員派遣		160,000
11 月	タイ・台湾ツアー	1,120,000	1,160,000
11 月	50 周年記念パーティー		130,000
	チュラロンコン大学支援	330,000	520,000
	新規提携先の開拓	300,000	800,000
	メイコックファームへの寄付	400,000	400,000
	バーンロムサイへの寄付	400,000	400,000
	Up with People への派遣費用	500,000	1,000,000
	その他の経費、報告書の作成、旅費、会議費	920,000	950,000
	年間活動計	6,030,000	7,740,000

運営委員　相馬、佐藤、毛原、古関、高橋、清水、安達、我妻、中島、瀧澤、肥沼

参加方法　OCAの活動はメンバー制を取っていません。入会金も必要ありません。
以下MRAハウスのホームページに活動予定と内容を記載しますので、参加ご希望の方は
是非ホームページに記載された申し込み方法にてご連絡ください。

連絡先

一般財団法人MRAハウス OCA国際交流事業
〒106-0047 東京都港区南麻布4-9-17
電話 03-3445-5111　Fax 03-3444-8629
ホームページ http://www.mrafoundation.or.jp/